

# [シラス]

## 1. 経年経過

バッチ網漁業の漁獲量は、西薩海域では、平成 11 年の 5,450 トンをピークに減少傾向を示し、平成 14, 15 年と 1,000 トンを下回り低調に推移しました。その後、平成 16 年は 3,507 トンと比較的好調に推移しましたが、平成 17 年以降減少傾向を示し、平成 29 年は 2,068 トンとなりました。

志布志湾海域では、平成 19 年まで増加傾向を示しましたが、その後、1,000 トン前後で増減を繰り返しながら推移し、平成 29 年は 1,007 トンとなりました。

## 2. 平成 30 年 1～2 月期の漁況の経過

西薩海域では、カタクチシラス主体に 95 トンの水揚げで、前年の 53 %、平年の 174 %でした。

志布志湾海域では、カタクチシラス主体に 30 トンの水揚げで、前年の 13 %、平年の 18 %でした。

## 3. 平成 30 年 4～6 月期の見とおし

漁獲の主体は、カタクチシラスでしょう。来遊量は、西薩海域は前年・平年を下回り、志布志湾海域は前年を上回り、平年並でしょう。

(根拠)

西薩海域では本年 3 月の卵稚仔調査でのカタクチイワシ卵の出現状況、カタクチイワシ親魚の来遊状況から、前年・平年を下回ると考えられます。

志布志湾海域では、直近の漁模様から、低調だった前年を上回り、平年並と考えられます。

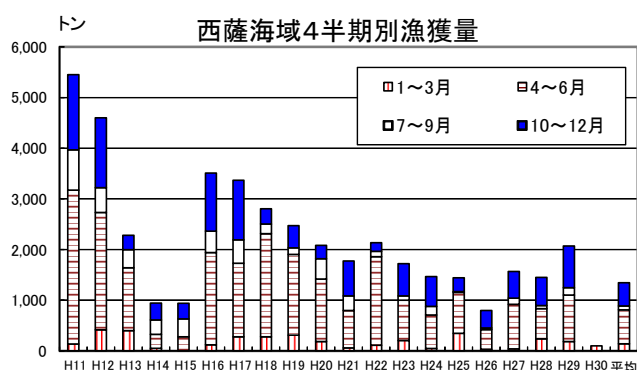
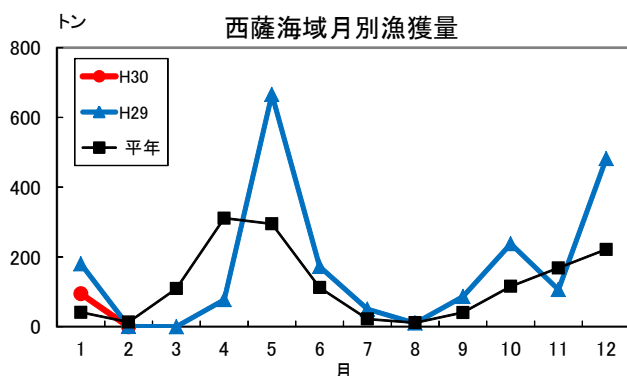


図 西薩海域バッチ網漁業の漁獲量変化(4 漁協計)

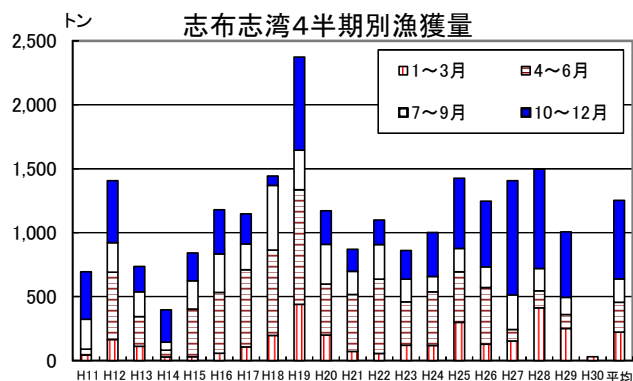
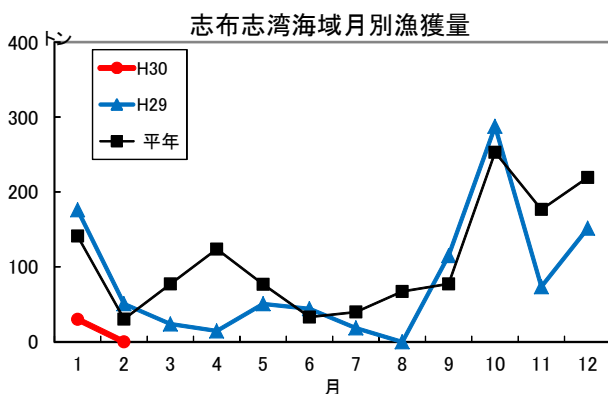


図 志布志湾海域バッチ網漁業の漁獲量変化(2 漁協計)

※平年値は過去 5 年の平均値(AV), 平成 30 年 2 月 28 日までの水揚げ量を使用